

7 / 20、23開催の柏崎市民説明会における発言・アンケートの概要

会場でいただいた意見・アンケートについて、主な意見をまとめたもので、同じような意見は一つにまとめてあります。

○ 会場

(1) 運転再開

- ・ 地震のような自然相手に「世界一安全な原発」はおかしい。また、そのようなものもいない。
- ・ 原発とは共存できない。廃炉も考えてほしい。

(2) 放射性物質、放射線監視

- ・ 地震直後、ある個人が自動車を運転中に、発電所周辺で高い放射線を検知したとの話がある。また、刈羽村の住民グループが地震の翌年の桜の花びらの異常を報告している。新潟県や東京電力はモニタリングポストに検出されておらず、健康に影響のあるような放射能漏れはないとしているが、原因究明が必要である。また、市ではどのように考えているか。
- ・ 発電所が運転すれば、微量でも放射線は出るはずだが、どのような対策を実施しているか。また、総量規制はどのようになっているか。

(3) 地盤、断層

- ・ 2003年東京電力は発電所周辺での調査により活断層を確認し、報告していたのに、保安院はなぜ公表しなかったのか。
- ・ 佐渡海盆東縁断層は北方にもっと延長するのではないか。住民に公開された議論の場を設けてほしい。

(4) 耐震安全性・設備健全性

- ・ 6号機の再循環ポンプについて点検件数はどのくらいか。
- ・ 東京電力から基準地震動の設定根拠が公表されていない。
- ・ 6号機の縦揺れの増幅について、他の号機では減衰されているのに基準地震動の設定がおかしいのではないか。また、1～4号機側より、揺れの大きかった5～7号機側を小さくしたのはなぜか。
- ・ 6号機のロッキング現象についてその推定は正しいのか。また隣接する5号機と7号機には同様の現象はなかったとのことだが、6号機の地盤に問題があるのではないか。
- ・ 5号機について、基礎盤が大きく、しかも深く埋め込まれているため、揺れにくくなっているとのことだが、6・7号機でも同様の改修はできないのか。
- ・ 6・7号機原子炉圧力容器の台座について、東京電力はコンクリート部分は解析しているが、鋼板の剛性については評価していないとのことだが、保安院は点検してい

るのか。

- ・ 「2号機を廃炉にせよ」という声も聞くが、損傷の程度や今後の見通しはどのなっているか。また2・4号機の点検が遅れているようだが、その原因は何か。
- ・ 健全性とは何か。「壊れない」ということか、「壊れても大丈夫」ということか。
- ・ 「中越沖地震より大きなものでも大丈夫である」とのことだが、どの程度のものまで大丈夫なのか。
- ・ 機器の点検について、目視検査だけでは不安である。浸透探傷検査、超音波検査も必要である。
- ・ いくら大きな基準地震動を設定し、それに対して安全性であると評価しても、補強が実施されなければ、安全率について疑問である。
- ・ 新たに策定された基準地震動に対し、基礎等、当初設計値のままで大丈夫か。
- ・ 2回も大きな地震を受けた発電所が、将来また地震に見舞われることが不安である。

(5) 行政

- ・ 地震後の市長の尽力に感謝する。
- ・ 県技術委員会は、県民から納得を得るための気休めに過ぎず、国に丸め込まれている。
- ・ 今回の地震が他のクリーンなエネルギーを考えるきっかけとなってほしい。
- ・ 放射線が強いため、目視点検ができないところがあると聞いているが、東京電力は「目視点検は終わった。安全は確認された。」とコマーシャルを放送している。おかしいと思うが、国は注意すらしない。市は何か注意等をしたか。
- ・ 市民説明会の開催中に7号機の営業運転を了解したのはおかしい。

(6) 説明会

- ・ 3月の住民説明会のアンケート「理解度」の項目について、「理解」を「了解」にすり替えられた。
- ・ 放射線の議論について、医学・生物学の分野からも専門家を登用してほしい。

(7) その他

- ・ 発電所が壊れて、放射性物質が放出された場合の責任はどこにあるのか。
- ・ 7号機の営業運転再開について、県市村が東京電力に対し提示した、いわゆる「4つの条件」はどのようになっているか。
- ・ 本日公表された7号機でのキセノンのモニタリング値の上昇は普段でも起こるものか。
- ・ 発電所の存在は、柏崎にとって、「仕方がない」ものなのか、「大事な柏崎の産業」なのか。

○ アンケート

(1) 運転再開

- ・ 運転して、全体的な健全性を判断すべきである。
- ・ プラント全体の機能試験で一定期間異常がなければ、運転に問題ないと思う。
- ・ よくわかった。自信を持って進めてほしい。
- ・ 安全・安心であれば稼働させてもよいのではないか。
- ・ プラント全体の機能試験で一定期間異常がなければ、運転に問題ないと思う。
- ・ 安全が確保できるというのであれば、早く運転してほしい。
- ・ 保安院が安全を認めたのだから、早急に6号機の点検、安全運転に取り組んでほしい。
- ・ 温暖化抑制が期待される原子力発電所は停止している方が不安である。できるだけ早く全号機に運転再開してほしい。
- ・ 7号機がきちんと運転されていることが、安全性を実証していると思う。着実な進捗を期待したい。
- ・ 参加者が少ないのは、運転再開に異議がないということではないか。
- ・ 発電所をなくすわけにはいかない。市長をこれ以上苦しめないでほしい。
- ・ 7号機も順調であり、大きな不安はない。6号機についても、説明により試験に入っても良いと感じた。
- ・ 発電所は必要である。万全の対策を採って再開してほしい。
- ・ 運転再開について、もっと手続きを簡素にしても良いのではないか。
- ・ 疑問は残るがやむをえない。
- ・ 未解決の問題があり、市民は不安に思っている。再開には問題がありすぎる。
- ・ チェルノブイリのようにはなりたくない。
- ・ 原子力発電所とは共存できない。

(2) 放射性物質、放射線監視

- ・ モニタリングポストの使用及び点検はどのようになっているのか。
- ・ 運転により放出される放射性物質について不安である。

(3) 地盤、断層

- ・ 佐渡海盆東縁断層の北方延長について、評価が確定されていない。
- ・ 発電所の立地点として地下構造が不安である。今後、調査実施のうえ説明をお願いしたい。

(4) 耐震安全性・設備健全性

- ・ 基準地震動について、上下動は大湊側が大きかったにもかかわらず、荒浜側の値が大きいのはなぜか。
- ・ インターナルポンプモーターケーシングの耐震性不足の問題は未解決である。運転再開前に解決すべきである。
- ・ 発電所の基礎等が現在の規制には適合していないとの指摘は、昔のことを現在の法律で裁くことと同じように感じられ、無理なことのようと思われる。

- ・ 設備健全性・耐震安全性について、それらの評価は不備である。7号機は県市村により、いったん停止させるべきである。

(5) 発電所の事故、復旧等

- ・ 6、7号機の復旧が早く、1～5号機が遅いのはおかしい。
- ・ 安全で安心して生活を続けられるよう、火災等の事故のないようお願いしたい。
- ・ 人間のやることに「完全に安全」はない。くれぐれも安全に留意してほしい。
- ・ 今後の発電所の安全について十分注意してほしい。
- ・ 何回も火災を繰り返すことに不安を感じる。

(6) 行政

- ・ 安全性・健全性に尽力しているのがわかった。今後もしっかり取り組んでほしい。
- ・ 国はエネルギー政策の転換を考え、長期的には脱原発の方向を目指してほしい。
- ・ 原子力安全・保安院と原子力安全委員会、原子力安全基盤機構の役割をもっと詳しく知りたい。
- ・ 保安院には疑問点については引き続き理解を得られるよう努力してほしい。
- ・ 国の委員会において、「約70人の専門家による、のべ約110回の会合等」を行っていることから、十分な検討がされていると思う。
- ・ 保安院の認識の甘さと言うよりも無責任さを再確認した。
- ・ 国と電力会社の癒着が存在する限り、国のいかなる説明も信頼できない。
- ・ 保安院の説明では、安全性・健全性のどちらについても理解・納得できない。また、3月以降、「地震、地質・地盤」についての説明がないが、この点について軽視しているのではないか。
- ・ 市長は国県への責任もあるが、市民の安全を一番に考えてほしい。
- ・ 7号機の営業運転についての説明会も開催し、市民の意見を聞いたうえで判断することが行政として必要ではないか。
- ・ 市長は何を考えているのか。
- ・ 行政としての評価を高める努力を継続してほしい。
- ・ 一部の反対派に振り回されすぎである。もっと自信を持って堂々と対応してほしい。
- ・ 反対する人はどこまでも反対する。気にしないでほしい。
- ・ 今後も、データは公開して行ってほしい。
- ・ 中越沖地震の経験・データは、国民の財産として大事にし、役立てて行ってほしい。
- ・ 「新しい知見を取り入れる」という国や市の言い分も耳触りは良いが、「『いつ』『誰が』『どのような判断のもとで』正当な知見として認めるのか」ということがなく、空虚である。
- ・ 新潟県技術委員会の2つの小委員会で議論が続いている状況で、運転は再開するべきではない。
- ・ 新しい知見を無視している。
- ・ 担当職員は原子力発電所のことを全く理解していない。不勉強である。

(7) 東京電力

- ・ 原子力発電所立地地域に住むのは不安だが、東京電力とも共存していかなければならないことも確かである。相互に信頼できる関係を築く必要があるのではないか。
- ・ 東京電力関係者の一部に交通マナーに問題のある方が見受けられる。人の教育が安全性・健全性に結びつくものではないか。
- ・ 東京電力は「隠す」と言うレッテルを貼られているが、今後はなにもかも、すぐに市民に伝えるようにしてほしい。

(8) 安全・安心

- ・ 事故のない、世界一安全な原発であるようにお願いしたい。
- ・ 安全について、「絶対」はありえない。何か不具合があれば、その都度公表し、しっかり対応してもらいたい。

(9) 説明会

- ・ よくわかった。
- ・ 詳しい説明であった。
- ・ 現状が理解できた。
- ・ 説明が簡潔でわかりやすかった。
- ・ 保安院の話を直接聞いた。
- ・ 質問に対して誠実に回答していた。
- ・ ていねいな説明で問題を感じなかった。
- ・ 専門的でよくわからなかったが、安全であることがわかった。
- ・ 壊れたところもあったが、安全は確保できたということがわかった。
- ・ 市長が最後まで同席し、質問にも自分で回答していた。
- ・ 保安院の説明により、安全性・健全性は理解できた。安心度は高まった。
- ・ このような時期の説明会の開催はタイムリーである。今後も継続してほしい。
- ・ 世の中に絶対ということはない。技術的判断による、安全性から見た数値の議論であるべきである。そういった意味では、答える必要のない質問があった。
- ・ 説明と「安全」とが結びつかない。もっと明確にわかりやすく説明することが必要である。
- ・ 実施された対策について、場所や内容、他号機への要否等についても説明してほしい。
- ・ 市の説明会に慎重派の学者も同席させてほしい。
- ・ 保安院は「安全を確認した」、「適切な対応をしている」と説明しているが、トラブルや火災は起きている。市民としては、不信感を持たざるを得ない。
- ・ 早口で専門的でわかりにくい説明であった。素人の市民でもわかるような説明をしてほしい。
- ・ 説明が長かった。
- ・ 説明にメリハリが欲しかった。
- ・ 膨大な資料なのに説明が短かった。

- ・ わかりやすい説明であったが、もう少しゆっくり説明して欲しかった。
- ・ 説明が形式的で工夫が足りない。
- ・ とおりいっぺんの説明であった。
- ・ 参加者が少ない。
- ・ 技術的な報告が多く、難しかった。
- ・ 説明から英語、略語を少なくして欲しい。
- ・ 説明者側に近い専門知識を持った参加者との議論を聞きたい。
- ・ 慎重派からの質問ばかりで、賛成派からの意見も聞きたかった。
- ・ 説明会の告知について、新聞折込チラシよりは回覧が良いと思う。
- ・ 町内単位で説明会を開いてほしい。
- ・ 安全については、設備等のハードの面と教育やモラル等のソフトの面があるが、今回の説明会では後者についての説明がなかった。
- ・ 内部被ばくについて検討されていないのは、住民の生命の安全上、残念である。機器等の安全についてのみでは片手落ちである。

(10) その他

- ・ 勤め人にとっては、発電所による経済的効果は絶大である。「反対」は、経済的影響を受けたくない人たちが勝手なことを言っているように感じる。
- ・ 電気を使用する東京都がもっと関心を持って、柏崎を応援してくれてもよいのではないか。
- ・ 市長を応援していた市議会議員が、発電所の問題については、市長の判断や説明に異論を唱えている。言っていることとやっていることが合っていないのではないか。
- ・ 人間がやることである以上、ミス等は避けられない。ただ、罰則を定める等、それらを減らすための策を講じてほしい。
- ・ いたずらに一般市民を混乱させるだけの一部反対派の誤った過激発言は本当に困ったものである。